

	意見概要	対応の方向性
管理運営の基本方針の構成について	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ミュージアム、行政としての活動を市民に“供給”する側の記述で終わらないでほしい。</u>もちろんその整理も必要だが、<u>まずは事業によってどのようなインパクトをもたらしたいのかという観点から、活動、方針を考えていけるとよい。</u>（源委員） ・ 「使命」から導かれる<u>基本方針1がミッションとしてあり、その下に基本方針2～4がある</u>と感じた。そのうえで、基本方針2・3は活動、4はそれを支える基盤、という見せ方のほうがわかりやすいのではないか。（源委員） ・ <u>管理運営の基本方針の内容と、それらと「これまでの検討内容における課題」との関係性がわかりづらい。</u>（金子委員） ・ <u>まず使命があり、次に現状や課題があり、最後にポイントの整理</u>となるのではないか。（金子委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理運営の基本方針や今後の活動の検討にあたり、<u>事業目的等を見据えて検討</u>する。 ・ 管理運営計画策定に向けて、ご意見を踏まえながら<u>管理運営の基本方針の構成を改善</u>していく。 ・ 課題と方針の関係性が明確となるように、<u>繋がりを意識して構成を検討</u>する。
「まちなかミュージアム」について	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>まちなかミュージアムの概念規定をしっかりとしたうえで活動を検討するほうが、よりよいミュージアムを形成できると考える。</u>（井上委員ほか） ・ <u>現在の「IN ACTION」の活動の中での「まちなかミュージアム」に効果を実感しているのか、それとも負担が大きいか、適切に客観的な評価を行ったうえで検討していくべきである。</u>（垣内委員） ・ 「まちなかミュージアム」の響きはよいが、<u>その名称だけでは何をやるのかはわからない。</u>一般的には、「ミュージアム」という言葉の定義はあまり認知されていないが、人材育成という意味でそれを発信していくのか否かは気になるところである。（小寺委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の「まちなかミュージアム」の活動について、<u>その効果や負担をしっかりと検証しながら、「まちなかミュージアム」の概念規定を明確にし、新たなミュージアム開館後の活動を検討</u>していく。 ・ 「まちなかミュージアム」の名称について、<u>今後の検討の参考</u>とする。
生田緑地内の連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>生田緑地内各施設との連携も大変重要である。</u>新たなミュージアムのハブ機能についても、基本方針に盛り込んでみてはどうか。（井上委員） ・ <u>ばら苑や生田緑地内各施設とどのように連携するのかという点が、管理運営の検討にも関わるため、今後議論する必要がある。</u>（垣内委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たなミュージアムの開館前の現在から、<u>生田緑地内各施設との連携の可能性を模索すべく、さまざまな取組を展開</u>していく。 ・ ばら苑の関係部署等とも引き続き協議を重ね、<u>効率的・効果的な管理運営のあり方</u>を検討していく。
「ともに創るミュージアム」について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ともに創るミュージアム」を、「ミュージアムのどの事業、経営のどの段階にまで広げるのか」が非常に重要になる。「使命」の解釈の最上段に掲げるにあたり、<u>特色のある取組を具体的に検討していく必要がある。</u>（平井委員） ・ <u>博物館、美術館を融合することによる魅力</u>があまり出ていないように思うが、それこそ<u>新たなミュージアム像や「ともに創るミュージアム」の大きな意味</u>にもつながるのではないか。（長門委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広く「ともに創るミュージアム」を展開させていくために、<u>各事業における具体的な取組について、実現性を考慮しながら検討を進める。</u> ・ 博物館・美術館両機能を有していることは特徴の一つと認識しているので、<u>常設展や企画展での博美融合の実施</u>に向け検討していく。
施設維持管理の方向性について	<ul style="list-style-type: none"> ・ サステナビリティの考え方として、「<u>どう維持管理していくか</u>」、「<u>どうやって持続可能なかたちで進められるか</u>」という視点を入れておくことが、<u>全体を考えるうえで必要</u>となる。（長門委員） ・ <u>川崎市が脱炭素先行地域に選定されていることを踏まえて検討すると、新たなミュージアムの特色のひとつになるのではないか。</u>（小寺委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>サステナビリティの視点も取り入れながら、全体を検討</u>していく。 ・ <u>脱炭素に係る取組の動向についても注視しながら検討</u>していく。
管理運営体制について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人人体制は、<u>組織のフォーメーションとともに、そこにどのような人材をあてていくか、その仕事力はどれくらいかを検討し、各間のバランスを図ることが重要</u>である。（井上委員） ・ 一般的に博物館、美術館機能とされる<u>収集・保管・調査研究・展示・教育は一体不可分</u>だと考える。（平井委員ほか） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な組織体制・人材の検討について、<u>今後の検討の参考</u>とする。 ・ 学芸業務を官民で完全に分断することなく、<u>その各ケースのメリット・デメリットを整理したうえで、魅力的な活動を展開</u>できるよう検討していく。